有利販売への取組み

王滝・御岳貯木場○下　原　義　雄
原　　道　隆
向　井　　孝

要　　旨

偏向した円高経済の真只中にあって，住宅着工戸数が多少上昇傾向にあるとはいえ，ニーズの多様化等による木造率の低下，また輸入材の圧力など国産材見直し機運はあっても極めて厳しい状況の中にあり，更に生産地点の奥地化に伴う材質の低下は避けられず，このような現状の中で，貯木場へ搬入された材の中から材長の見直しにより，少し手を加えれば材価を向上させ得るものはないかと考え，少量ではあるが取組んでみた。

は　じ　め　に

当貯木場は御岳山の麓に位置し，年間約14,000㎥を受入れ，この材の中から材長の見直し採伐により，材価の上昇，収入増大への道を少量ながら試みた。

Ⅰ　調査の概要

先に触れたが王滝署の生産材の過去3か年を見ると表―1のとおりである。

表―1　年度別・樹種別生産割合

樹種別＼年度		58	59	60	61
木曽ヒノキ		65%	54%	52%	43(49)%
サワラ		17	16	19	25(17)
〃		13	22	23	21(25)
〃		5	8	6	11(9)
木曽ヒノキ	立木平均胸高径	36	38	38	38cm
	素材30cm上	50	43	45	36%
	素材28cm下	29	24	16	12
	劣材特木	21	33	39	52

1．生産量に占める木曽ヒノキの割合は58年度を100%とし，61年度は35%ダウン，以下表のとおりである。

2．木曽ヒノキ30cm上72%で28%ダウン，28cm下41%で59%ダウン，反面低質材は248%で約2.5倍に増加している。

3．これらは樹高，枝下高，それぞれの低下によるものと考えられる。

Ⅱ　実行結果

表―2

区分	原木（処理前）					有利採材					端尺材				
計測値	長級	径級	品等	本数	材積	長級	径級	品等	本数	材積	長級	径級	品等	本数	材積
	60cm～50	28cm～54	4	29本	28㎥	44cm～20	42cm～58	2～4	29本	21㎥	30cm～26	38cm～58	4	29本	9㎥
試算価格	4,758					6,719					670千円				
販売価格	5,322					7,339					728千円				
材積差	(21 + 9) − 28 = 2㎥　108%														
価格差	(7,339 + 728) − 5,322 = 2,745千円　152%														

1．対象樹種　木曽ヒノキ
2．数　　量　29本　28㎥
3．調査期間　7月～11月
4．販売時期　9月，11月，12月

実行結果から材積において2㎥，108%に増加し，価格差において2,745千円，152%の増加となった。

また有利採材販売の内訳は神宮用材を主体とし一部を公売とした。

材長の見直しによる端尺材は公売を主体とし，一部を彫刻等の用材として随契販売した。

Ⅲ　まとめ

これらからみた利点と問題点は次の点があげられる。

1．材積が増加する。
2．柱材を中心とする市場性に問題がないか心配される。
3．端尺材の販売が困難とならないか。
4．市場動向を充分に調査しながら，量の決定をする必要があると考える。

表3　実　行

区分	原木（処理前） 摘要	長級	径級	品等	本数	材積	試算価格	有 長級	径級
9月販売	−20Ⓑ	5.0	46～52	四	4	4.914	837,990	3.0	50
	−20Ⓑ		54	〃	1	1.458	290.056		56
									58
								2.0	56
		計			5	6.372	1,128.046	計	
	1,128.046 × 106 % = 1,196,000 価格差 121 % 材積差 115 %							元玉3等 1.691/2	
11月販売	Ⓑ	5.0	28	四	1	0.392	30,331	4.0	46～52
	−4Ⓑ		36	〃	1	0.648	86,444	3.4	32
	Ⓑ		40～44	〃	4	3.450	559,521	4.0	40～42
	Ⓑ		46～52	〃	5	5.870	1,224,071		46～52
	Ⓑ	6.0	44	〃	1	1,215	223.956	3.8	36
								2.0	44
		計			12	11.575	2,124,323	計	
	2,124.323 × 112 % = 2,379,000 価格差 158 % 材積差 105 %								
12月販売	Ⓑ	5.0	38	四	5	3.610	501,646	3.8	44
	Ⓑ		40～42	〃	6	5.046	818,360	4.2～4.0	40
	Ⓑ	6.0	40	〃	1	1,009	185,985	3.8	44～42
								2.2	42
								4.4	42
								4.2	40
								2.2	42
								3.4	44
		計			12	9.665	1,505.991	計	
	1,505,991 × 116 % = 1,747,000 価格差 165 % 材積差 106 %							元玉2等 0.736/1 元玉	
計	A、材積差（㎥） 原木−有利採材＋端尺材　108 % 27.612 −（21.103 ＋ 8,702）＝ 2,193							B、価格差	

結果の内訳

王滝　御岳貯木場

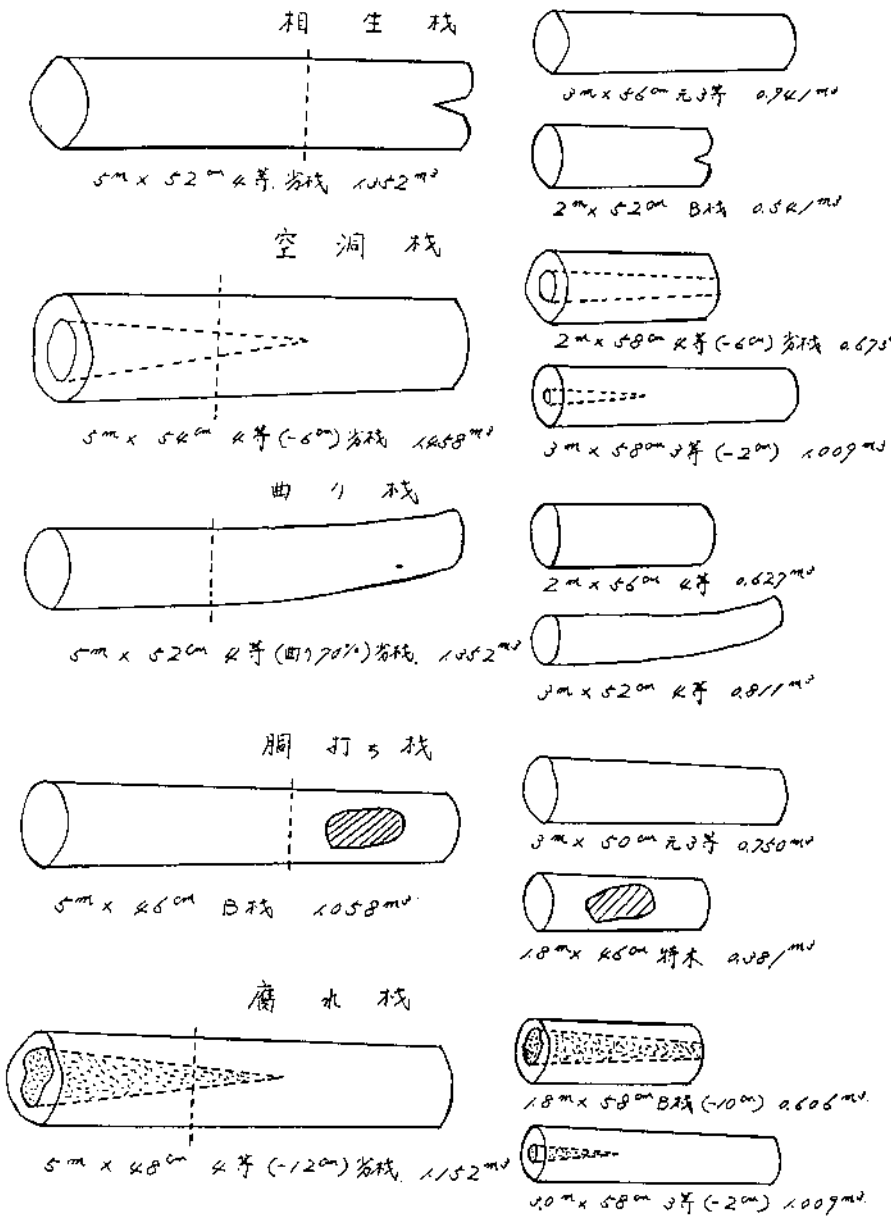
利採材 品等	本数	材積	試算価格	端尺材 長級	径級	品等	本数	材積	試算価格
元三	1	0.750	207,828	3.0	52	四	1	0.811	109,923
〃三	1	0.941	304,214	2.0～1.8	52	B	1	0.541	51,862
三	2	2.018	501,828		58	B	2	1.279	143,084
元四	1	0.627	70.144		46	特木	1	0.381	11.430
	5	4.336	1,084,014	計			5	3.012	316,299
販売額 1,116,000 元玉4等 0.627/1 中玉3等 2.018/2				販売額 326,000 中玉4等 0.811/1　B材 1.820/3　特木 0.381/1					
元三	4	3.696	1,746,231	3.0	40	四	1	0.480	50,587
〃三	1	0.348	97,925	2.0	42	〃	1	0.353	25,765
三	2	1.346	328,218	1.6以下	28	〃	1	0.125	2,801
〃	3	2.850	893,480		40～44	〃	3	0.580	28,240
〃	1	0.492	78,624		46～50	〃	4	0.924	57.798
〃	1	0.387	49,948		54～58	〃	2	0.628	45,838
	12	9.119	3,194,426	計			12	3.090	211,029
販売額＝3.514,000 元玉3等 4.044/5　中玉3等 5.075/7				販売額 236,000 中玉4等 3.090/12					
元二	1	0.736	322,721	2.8～1.8	38	四	2	0.808	50,540
元三	4	2.624	976,534		40	〃	1	0.352	25,692
〃〃	2	1.406	444,535	1.6以下	38	〃	4	0.520	21.668
〃〃	1	0.388	127.441		40～42	〃	5	0.920	44.794
三	1	0.776	205,679						
〃	1	0.672	178,113						
〃	1	0.388	54,432						
元四	1	0.658	131,078						
	12	7.648	2,440,533	計			12	2.600	142,694
販売額 2,709,000 3等 4.418/7　元玉4等 0.658/1　中玉3等 1.836/3				販売額 166,000 中玉4等 2.600/12					

（千円）

原木−有利採材＋端尺材　152 %

5,322 −（7,339 ＋ 728）＝ 2,745

図—1



おわりに

付加価値生産の前提は生産，販売事業との密接な連携によることは当然であるが，貯木場でも数量のみにとらわれることなく，材価の面でも充分精査検討を加えることにより，日頃の小さな工夫と努力が大きく収入に結びつくことを確信したので，今後も一層努力をしたいと考えている。